

学力向上アクションプラン(臼杵市)

目標及び指標

【目標】

1. 全国学力学習状況調査において、全ての教科で全国平均を超える。
2. 大分県学力定着状況調査において全ての教科で偏差値50を超える。
3. 全ての学校において、各学校ごとの目標達成に向けて組織的に授業改善に取り組む。

達成指標

1. 児童・生徒の学力に関する目標
①全国調査において、学力調査における活用問題 平均正答率が全国平均正答率を上回る学校 100%(全19校) 指標1 大分県学力定着状況調査(4月実施)において全ての教科で偏差値50を超える 学校 100%(全19校)

2. 児童・生徒の学力に関する目標② 下位層の児童生徒の割合 小学校 全教科5%以下 中学校全教科15%以下(大分県学力定着状況調査の正答率で検証する)

3. 学校等が抱える組織的・構造的課題に関する目標①各学校の目標達成に向けて組織的に授業改善に取り組んだ学校 100%(全19校)指標1「授業改善シート」を活用した管理職の授業観察 ほぼ毎日 100%
指標2「新大分スタンダード」の取組…9観点
◎全教職員対象に実施 1学期末85%2学期末100%

取組指標

指標1 学力向上支援教員等の授業公開参加率100%
指標2 授業改善の5点セットに基づいた各校独自の授業スタイルの確立および管理職、教務主任会議を年3回開催し、ミドルリーダーがPDCAサイクルを実行する。全18校
指標3 若年層(教職経験10年未満)を対象とした授業実践学習会への対象者参加率100%

指標1 臼杵市基礎・基本テスト(1月実施)において全国正答率と比較し、10%以上正答率が下回った小問についての改善方法、および実効性のあるA問題対応策を盛り込んだ「改善計画書」「改善報告書」の提出 全19校(100%)
指標2 過去の全国調査、県調査、フォローアップシートの問題を活用した授業の実施 全19校(100%)

<管理職による授業観察、指導の徹底>
<新大分スタンダードの日常化>
◎「学力向上に向けた取組状況」を活用した振り返りを実施
指標1「授業改善シート」を活用した管理職の授業観察⇒毎日実施
指標2「新大分スタンダード」の取組の定着…9観点の自己評価(振り返り)◎全教職員対象に振り返りを実施(1学期末、2学期末に実施)

行動計画

①「中学校学力向上対策3つの提言」の実施に関して

ア:「生徒指導の三機能を意識した問題解決的な展開の授業」について
[具体的な行動計画]中学校学力向上プロジェクト2017～子どもと共に創る授業を目指して～
i) アクティブラーニングの視点に基づく思考力の育成(事業の発展)
(目的)外部講師を招聘し、シンキングツールを活用した思考・判断・表現を育成する
授業のあり方を実践。29年度は、1学期はじめと2学期のおわりの2回招聘し、検証・改善、定着を図る。
ii) 若手教員を対象とした授業実践学習会の実施⇒学力向上支援教員、習熟度指導推進教員を講師とし、若手教員を対象とした研修会の実施する(夏休み、学力向上支援教員連絡会を弾力的に運用し、通年で実施していく計画)。
iii) 「授業の達人に学ぶ2017」授業実践研究会の実施
(目的)県内外の中学国語・数学の授業実践者(指導教諭、授業名人等)に学ぶ。
イ:「学校規模に応じた教科指導力向上の仕組みの構築」に関して
[具体的な行動計画]臼杵市教育研究協議会の教科部会及び小中一体教育の学力向上部会の積極的な活用
i) 臼杵市中学校学力向上推進事業「数楽 Project 2017」～わかった!できた!の声が聞こえる数楽を目指して～
(目的)市内生徒の学力の定着具合を把握し、具体的な方策を統一して取り組み、PDCAサイクルをマネジメントし、主体的な組織を構築していく。
(達成指標) ①平成30年度全国学力学習状況調査において 数学A,Bともに正答率が県平均を超える
②生徒質問紙で「数学が好き」と答える生徒60%を超える (H28は47.7%)
(具体的な活動内容) 目指すゴールの共通理解、授業研究会、指導案検討会(大分大学との連携)、各種学調の結果分析・フォローアップ、単元末テストの共有、数学サポーターとの連携など
ii) 大分大学との連携
(目的)中教、中理部会と大分大学との連携を図り今求められている資質・能力を育成する授業のあり方を探る。
(長期的な見通し、目標)教育学部、そして将来教員を目指す学生との授業実践等の連携
iii) 福井県から学んだ「タテ持ち」のよさを取り入れながら、教科担任の「タテ持ち」を推進・普及していく⇒市内好事例を校長会、教頭会、教務主任会などで紹介
iv) 小中一体教育の重点項目「学力向上」へ転換していく。⇒ブロック内での授業実践交流を促進する。
V) 学力向上支援教員、習熟度指導推進教員の3回の公開授業は、各教科担当者(国、数、英)は、原則全員参加とする。その際、公開授業と事後研究会と併せて各教科部会を開催し、実践交流の場に位置づける。
ウ:「生徒と共に創る授業の推進」
[具体的な行動計画]生徒による「授業評価」の全面实施
i) 生徒による「授業評価」を推進・普及していく⇒市内好事例を校長会、教頭会、教務主任会などで紹介する。現在、6校中4校実施しており、全面实施に向かわせていく。
ii) 生徒会と運動していく。⇒目指す学校像、授業像の共有する。学習規律や授業のきまり
等を生徒自らが考え、それを守る取組を生徒会や学級会などで実践していく。
上対策3つの提言」推進重点校を核に「中学校学力向上対策3つの提言」を具現化していく。

②小学校の授業改善の取組について

(1) 授業改善「3・9チェックシート」の重点項目(=課題)の明示、自覚、課題解決を徹底。
(2) 小学校学力向上プロジェクト2017～次期学習指導要領改訂への迅速な対応のために～
①アクティブラーニングの視点に基づく思考力の育成(事業の発展)
(目的)鳴門教育大学の泰山裕先生を招聘し、シンキングツールを活用した思考・判断・表現を育成する。授業のあり方を実践。本年度は、1学期はじめと2学期のおわりの2回招聘し、検証・改善、定着を図る。
②小学校外国語活動の先行実施に向けた全員学習会の実施。⇒義務教育課への協力依頼、地域人材の積極的な活用、授業支援体制の確立。
③「特別な教科」道徳の先行実施に向けた全員学習会の実施。⇒義務教育課への協力依頼(講義、演習)
(3) 若手教員を対象とした授業実践学習会の実施
⇒学力向上支援教員、習熟度指導推進教員を講師とし、若手教員を対象とした研修会の実施する(夏季休業中の研修会。学力向上支援教員連絡会を弾力的に運用し、通年で実施していく計画)。
(4) 学力向上プロジェクト2017との連携
⇒長期休業における市内統一問題の作成、配布、活用。

③家庭・地域と連携した学力向上の取組について

・3つのきょう育推進フォーラムのテーマを学校、家庭、地域の協働のあり方とし、それぞれが連携をして臼杵市の子どもを育てていく意識を高める。
・「協育コーディネーター」と「臼杵まなびりすと」を積極的に活用するとともに、各地域振興協議会との連携を図ることで、地域の支援者の協力をより多く得る。
・放課後子ども教室を開設(全13校)し、小学校低学年の基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
・土曜教室および、夏休み、冬休みのチャレンジ教室を開設し、中3を対象に補完的な学習を行い、学力保障、学力向上の一助とする。
・うすき土曜ふれあい学校を年6回実施し、地域との協働を充実させていく(6000人の活動参加を目指す)。
・学習サポーターの積極的な活用。